



# Nepal Blind Support Association

## ネパールの視覚障害者を支える会会報

第21号 2008年7月 ネパールの視覚障害者を支える会 (NBSA)

NBSA : <http://NBSA.sakura.ne.jp/>

主内容：ネパールの働く仲間/総会報告/ NBSA 会長退任の挨拶/ネパール事務所訪問記/ネパールよもやま話 シャハ王朝の小史と王政解体への歩み/ YA の失敗しちゃったネパール/事務局だより



### ネパールの働く仲間 スダン・タドカ 22歳男性 ラリトプル市出身

彼は5歳のとき完全失明した。現在は同市の大学に通い、社会学部、人文学科に在籍中。そのかわり携帯電話の修理技術等を学んでいて自立を目指している。彼の趣味は音楽。ソフトなロックが好きだという。NBSAへは、カセットテープライブラリーの小説を借りに来る。物静かで、友達の話じっくり聞きたい男。その穏やかな顔つきに似合わずメカに強いらしく機械類は何でも手に触れないと気が納まらない。学業が暇なときに造花を作り、近所の商店に置いてもらっている。稼いだお金は何に使うの?と聞くと、「そんなに儲かりませんよ、NBSAへ行くバス代くらい親に負担をかけまいと思っているので。まあ、その程度です」とのこと。彼は両親と姉と共に住んでいる。ネパールでは比較的小さな家族。将来は教師になりたい。自活したいし、美人の彼女もほしいと密やかな夢を持っている。今日スダン君は、事務所に飾ってくださいと、グラジオラスの造花を持って来てくれた。

2008年6月19日

## 2008年度NBSA総会

ネパールの視覚障害者を支える会（NBSA）2008年度総会は、平成20年4月19日、鹿児島市かごしま市民福祉プラザ ボランティアセンターにおいて開催された。会議の定足状況は、正会員63名、定足数32名に対し、出席者11名、委任状提出者39名の計50名で、定足数に達し、総会は成立した。

承認、了承等された議案は、次のとおりです。

- (1) NBSA 会則が改定されました。（この新会則は会員各位には会報21号に同封します）
- (2) 2008 - 09年度の役員等が以下のように決定されました。役員の内、副会長の2名は新任です。
- |          |                         |           |       |        |  |
|----------|-------------------------|-----------|-------|--------|--|
| 会長       | 渥美 資子（前副会長）             |           |       |        |  |
| 副会長      | シュレンドラ・ガウタム（ネパールNBSA会長） | 副会長（会計担当） | 太田 浩二 |        |  |
| 監査       | 中山 須磨子                  |           |       |        |  |
| 委員（50音順） | 上田 耕平                   | 串田 芙美子    | 中村 英明 | 西村 希志子 |  |
| 顧問（50音順） | 青山 茂                    | 谷川 昌幸     |       |        |  |
| 事務局代表    | 高梨 憲司                   |           |       |        |  |

- (3) 2007年度事業・活動報告と決算報告の要約は以下のとおりです。

### ・事務局活動報告

2007年

- 4月 鹿児島市ボランティアセンターにおいて総会開催。  
鹿児島県民交流センターにおいてチャリティーコンサートを開催。
- 8月 木下航志ネパール公演に同行。
- 12月 OBCラジオ大阪：木下航志ネパール公演他に関して取材協力。

### ・現地（ネパール）活動報告

<b>定例活動</b>	カセットテープ・ライブラリー	点字出版物の作成と発送
白杖の地方への随時配付	古着の随時回収と発送	日本向けネットニュースの配信と会報誌の発送
	会員向け残暑見舞いの送付	

### **その他の事業**

2007年

- 5月 全国視覚障がい者のクリケット試合のサポート
- 6月 ボランティア会議 生活自立訓練会、視力に障がいのある女性の基礎化粧品
- 7月 カトマンドゥ親の会セミナー
- 8月 視覚障がい児の親等への啓発セミナー（ポカラ） 学校対校 クイズ大会（ポカラ）  
日本人歌手、木下航志のネパール人学生の交流とチャリティーコンサート。
- 9月 子どもの日クイズ大会 カトマンドゥ盆地学校対抗戦
- 12月 国際障がい者の日 カトマンドゥ親の会会議 ボランティア感謝祭

2008年

- 1月 全国親の会カトマンドゥ会議
- 2月 カセットテープ・ライブラリーの聴聞会と日本福祉大学の学生との交流会

## 2007 年度決算報告書 （省略）

・ 2007 年度決算報告（上表の通り）

【監査結果】中山須磨子会計監査役に監査を依頼した結果、2008 年 4 月 8 日、決算書は適正であることが認められました。

（ 4 ） 2008 年度事業計画が承認され、2008 年度予算書が決定しました。

・ 2008 年度事務局事業（活動）計画

- 1．事務局移転に伴う支障を最小限に留めるよう留意しつつ、会の円滑な運営に努める。
- 2．リーフレットを作成して会の活動の理解啓発に努める。
- 3．会員の増強に努め、新規会員 15 名（会費収入 10 万円）を獲得する。
- 4．6 万円を目標に寄付金を募る。

・ 2008 年度現地事業計画

### 定例活動

- 1．カセットテープ・ライブラリー（作成目標：小説など 50 冊）
- 2．点字マガジン（作成と発送 目標：6 回 合計 300 部）

NBSA2008 年度予算書 (省略)

**その他の定例活動**

ボランティア派遣 ウォークマンの貸し出し  
白杖の地方への随時配付 古着の随時回収と発送  
NBSA ネットニュース(日本向け) 11回配信  
会報誌(日本向け) 年3回送付  
日本の会員向け残暑見舞いの送付

**事業の部** (施行日未定)

生活自立訓練会 2回 (地方とカトマンドゥ) 視力に障がいのある児童をもつ親への啓発  
セミナーと地方での親の会発足 クイズ大会 2回 (地方とカトマンドゥ)  
国際障がい者の日記念式典と行政行動 カセットテープ・ライブラリーに関する聴聞会  
ボランティア感謝祭 ピクニック クリケット大会支援



NBSA2008 年度総会

・2008 年度予算書 (上表のとおり)

(4) その他 なし  
以上



ネパールの視覚障害者を支える会（NBSA）会員の皆様には、ご清祥にてご活躍のことと存じお慶び申し上げます。

早いもので、私が2004年（平成16年）4月にNBSA会長を拝命して、2期4年があつという間に過ぎました。ネパールでは2005年2月からの国王による政権掌握も終止符をうち、1996年以降続いたマオイストの武装闘争も終り、王制廃止、共和制に移行することも先月末に決議され、民主化へ向かっていることは喜ばしい限りです。

長いようで短い4年間でありますが、この間、皆様の協力により、鹿児島におけるチャリティーコンサートと現地活動報告の開催が2度、ロータリークラブからの白い杖2,000本の寄贈と配布、高速カセットテープダビング機の購入、さらに在ネパール日本大使館のホールで盲目の音楽家 木下航志君のチャリティーコンサートを開催すること出来ました。

もちろん本来のNBSAの活動はカトマンドウ支部において、政変やストライキ、停電の影響を受けながらもカセットテープライブラリーと点字月刊誌という定番を定着させるなど着々と成果を上げてきています。

後任会長はNBSAを立ち上げた当事者であり、今までは副会長兼カトマンドウ駐在ということで実際に現地において活動を行ってきていますので、NBSAのこれからの活動と発展を期待しています。私は会長退任後もNBSA役員として微力ながら協力していきますので、皆さまこれらもご協力ご支援のほど宜しくお願いいたします。

#### 会長就任の挨拶

渥美資子（あつみよりこ）

再度会長に就任いたしました。2004年から3年間JICAのシニアボランティアで、ネパールの社会福祉協議会に赴任した関係上、上田さんにぜひぜひ会長を、とお願ひしました。でも、あー、この人に会長になってもらってよかった~と思うほど、様々な面で大活躍していただき、本当に感謝感激です。上田さん以上の活躍はちょっと自信がありませんが、精一杯頑張ってみます。



#### NBSA ネパール事務所訪問記（その1）NBSA 日本事務局担当 高梨憲司

今回、私がネパール事務所を訪問したのは6月21日（土）、雨季の晴れ間の夕刻のことであった。当日はその後4日間も続くこととなった交通ストライキの初日で、移動する術がなく、NBSA 青年スタッフのバイクに乗っての訪問となった。実は私がネパール事務所を訪問したのは2度目となる。昨年もちょうど同じ時期に渥美さんを訪ねた折り、来訪されていたオムさんからNBSAの活動について説明を受けた。まだNBSAの会員でなかった私は、JICAの青年海外協力隊員としてネパールで活動している娘に面会することと、娘が世話になっている渥美さんに挨拶するのが目的の、気軽な訪問であった。にもかかわらず、オムさんの熱のこもった説明に、ネパールの視覚障がい者が自立を願う真剣な思いに、何か引かれる気持ちでネパールを後にしたことを覚えている。

その夜は事務所のリビングで円座となり、渥美さん（会長）とピソさん（旅行代理店経営のスタッフ）の手料理を酒の肴に、シュレンドラさん（副会長、銀行員）、渥美さんの友人でもある菅原さん、それに視覚障がい当事者であるオムさん（ラジオの障がい者向け番組のアナウンサー）と共に、深夜まで話に熱中した。

翌日は朝から生憎の雨模様。私の「日本の視覚障がい者福祉とボランティア活動」に関する講演会を予定していたのだが、「これじゃ、来たくても交通手段はないし、来られやしないだろう」とあらかじめかけていた頃、3人の視覚障がいメンバーが駆け付けてくれた。中には2時間も歩いて来たとか。何ともその熱意には頭が下がる。それから2時間余り、渥美さんとピソさんの通訳を交えて、ネパールの視覚障がい者の現状と自立支援の方法について真剣な議論が交わされた。それがどんな内容であったのか。次回のお楽しみとしたい。



### 血塗られたシャハ王朝の歴史

現在のネパール国土を統一したプリティビ・ナラヤン・シャハ王は、建国の父と呼ばれている。それより以前、カトマンドゥ盆地を中心にマッラ王朝が栄え、中世にかけて優れた美術工芸を興隆し、今日見られるネパールの芸術を開花させた。しかし、1768年シャハ王に征服され、ネワール人たちは王朝の座をシャハ一族に譲ることになる。新勢力シャハ王朝の勃興は、ネパールという国の輪郭を内外に明確した反面、国内に住んでいた諸民族のアイデンティティーの否定にも繋がった。ヒンドゥー教を元にしたカースト制度の強化により、ネパールの政治史は、ネパール語を話すインド・アリア系の高位カーストのブラーフマン、戦士階級のクシャトリアのみが舞台に立つことになる。その後シャハ王朝は、1800年前半領土をめぐる問題で英国に3度敗れ、以降イギリス軍に山岳ゲリラを中心としたグルカ兵を提供する義務を負わされる。(NBSA ネットニュースで掲載中の「グルカ兵の物語」も参照されたい)さて、240年間続いたシャハ王朝の業績は、初代のプリティビ・ナラヤンの国家の形成以外さしたるものはなく、豪華な生活に没頭し、血なまぐさい親族対立の陰謀に満ちた時代だったようである。5代のラジェンドラ・ビクラ・シャハの時代には、すでに王家による統治能力が無く、家臣のラナ家に国政のすべてを譲渡してしまう。ラナ家の永続的な摂政のような態勢は、すべて血縁関係により成り立ち、正妻との子どものほかに妾腹の子どもをも宮廷内で高位に付かせ、ラナ家の支配勢力は、宰相の地位についていた104年の間に膨大な数に膨れ上がった。



### 民主化の波とシャハ王朝

20世紀に入ると、世界的民主化の風をうけ、ネパールでも政党政治を求める声が高まった。政党の結成と共にラナ施政に反発する王族が、当面の目的の為に共同戦線を打ち出したが、ことごとく踏みにじられてしまった。1951年インドのネル首相の斡旋で、国王、政党の国民会議派、ラナ家の3者会議が行われ、国王を元首とする臨時政府が樹立し、ここにラナ家の専制政治は終結した。しかし、1962年時代遅れの王政復古の臨時政府は、総選挙で国民会議派大勝すると、国王自らクーデターを起こし、憲法を改正して政党結社の自由を奪ってしまった。以降1990年の民主化運動まで、ネパールは国王自身が上級議員を選出する国家パンチャーヤット制度(マッラ王朝などが数百年前に施行していたシステム)を導入し、国民による民主化の波を阻んでしまった。

### 王朝の終焉 - 世にも奇妙な次期国王皇太子の自殺

王朝の終焉は2001年6月1日に始まった。それは王族晩餐会の席上、当時皇太子だったディペンドラが、自身の結婚に反対した当時の国王・ビレンドラ氏夫妻ら9人を相次いで射殺して、自らも命を絶つという非現実的なシナリオだった。皇太子が自殺を遂げた後、当然、王座はビレンドラ国王の弟ギャネンドラが継承した。ギャネンドラ国王の施政は、50年代に政党政治の勃興を阻止した父王のものに酷使していた。王室事件を境に活発化した毛沢東主義派の武力闘争を、政府が鎮圧化できなかったことを理由に、国王は議会を解散し、自ら政治を行うという時代錯誤的な愚行に走っていった。2005年2月1日国王は、情報の封印という前近代的な手段をもってクーデターを起こし、政党政治家とマオイスト派に対抗。政治的権力を掌握した。その結果、固定電話は1週間、携帯電話は3週間回線が切断され、国際世論から厳しく非難された。こうした中、

マオイスト派は着実に勢力を伸ばし、地方から都市への包囲網を固めていった。ついにはカトマンドゥに潜行していた幹部らが現れ、最終的に既存の7大政党と共闘するに到る。

### 2006年4月6日～25日カトマンドゥに赤旗が翻った日



民衆がついに蜂起し、ネパール史上最大の百万人デモを実現した。留まることを知らぬ群集に飲まれ、公務員、警官や治安部隊ですら投降していった。目指すは、ナラヤンヒティ宮殿。名も知らぬ群集の明らかなる意思是、真の民主主義の希求と、王政の廃止であった。4月24日国王が、主権を国民に戻し、2002年5月に解散した下院を復活することを宣言した。その後、幾度に亘る修正を加えながら、2008年5月28日これまでの下院が決めた暫定憲法に従って、制憲議会の前身・暫定議会が生まれ、王政を廃し、ネパールの連邦共和制への移行が宣言された。（渥美資子）

### ネパールよもやま話 Y Aの失敗しちゃったネパールその3

**食事の習慣：**「今日はネパール式の宴会を体験してください」とあるネワール族の富豪に呼ばれたときだった。宴会で盛り上がるのかと思ったら、みんな通夜のときのようにもくもくとご飯を食べるだけ。せっかく呼ばれたのだから、何か喋らないと悪いのかと思い「ああ、これにもある」「スパイスの香りがいいね」などサービス精神を発揮して、周囲の人にやたらと話しかけたが誰も乗ってこなかった。後で聞いたら食事中におしゃべりをするのは下品な習慣とのこと。日本の懐石のようなものか。それにしても客の入れ替わりが激しくてなんとも落ち着かない。メシをおごる、というのがどうやら大イベントなのだから後はどうでもよるしらしく、ご馳走になったら速やかに退散するのが礼儀らしい。

**神聖なムシロ：**これは国賓などが飛行機のタラップを降りるときに敷かれるような、細長いカーペットを連想されたい。ただし素材はムシロ。それに何人かが、交代しながら座って食事をいただく。これもまた、独特の由来がある敷物とのこと。うーん、ネワールの文化は奥が深い。あまりに慌しく食事の交代があるので、ついついムシロを踏んでしまい、周囲からキツという目でにらまれた。どうやら踏んじゃいけないらしい。

**子どもの頭をなげるのもダメ：**ネパールの子どもは比較的人懐こくて愛嬌がある。でも、ああ、可愛いと頭をなげるのは禁物。頭をなげることは、相手を下にみるという事らしい。



**道を聞く：**これは誰かれと声をかけてはならない。後で余計に時間を喰ったとか、迷子になってしまった、など不愉快な目にあうのが落ちだ。カトマンドゥの外国人租界タメルで旅行者が地図を広げていると、興味本位と親切心で誰かれとなくやって来てアドバイスを始める。ついでに国籍を聞かれることが多い。誰もがデタラメでもいいから、教えないと気がすまないらしい。しかし、間違っていることが多いのだ。ここを左にそしてニワトリのところを右に行き、それから犬が吠えているところで斜めに...。と言われても我々にはさっぱりわからない。左右、東西、もしくはメートルで説明されることが当たり前と思っている我々には、想像の範疇を超えていて、かえって迷子になる。それなら始めから知らないと言え！と言いたいところだが、困っている相

手を見過ごせない、という親切心、または、デタラメでも何でもいから知らないと言うとバカだと思われるのでプライドが許さず。或いはなんでも構わないと、思っているのかもしれない。実は、ネパールに10年も住んでいるが、彼らのセンスが未だにわからない時がある。

## **NBSA カトマンドゥーからのお知らせ**

NBSA ネットニュースをご存知ですか？NBSA は年3回の会報の郵送とは別に、メールによるニュースを、月1回カトマンドゥー現地から日本語で配信しています。毎月の活動報告の他に、ネパールの時の動き、文化や文学等の紹介も行っています。音声パソコン対応の編集をしていますので、誰でもスムーズに受信できます。受信をご希望の方は、直接 NBSA カトマンドゥーにお申し込みください。ネットアドレス：[NBSA@mail.com.np](mailto:NBSA@mail.com.np) または [yorikonepal@hotmail.com](mailto:yorikonepal@hotmail.com)

## **事務局だより**

(写真左から：新事務局を担当する高梨さん、高橋さん、川崎さん。視覚障がい者総合支援センターちば前にて。みんなすごく笑っていますね。後でどうして？と訪ねると「写真を撮られるのが恥ずかしかったから」とのこと。ちなみに後ろの銅像は日本語点字の考案者、石川倉次氏です。



何時も NBSA(ネパールの視覚障害者を支える会)の活動にご協力いただき、ありがとうございます。本年の4月から事務局を担当させていただくことになった高梨といいます。長い活動経験を有する前任者の上田さんのようにはできませんが、皆様のご支援をいただきながら、少しでも極貧の中で頑張っておられる現地の視覚障がい者のために、微力を捧げたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、出費の多い時に誠に恐縮ですが、今年度の会費を下記にお振込みいただきたく、お願ひ申し上げます。ご存知の通り年会費は6千円ですが、ご寄付も喜んで承りますので、上記の事情にご理解を賜りますようよろしくお願ひいたします。

なお、今年度より事務局移転に伴い振替口座番号が変わりましたので、ご注意ください。

会費の納入方法：郵便局に備え付けの「郵便振替口座払込取扱票」を用いて、口座記号番号 00190-7-762775 加入者名 ネパールの視覚障害者を支える会 (3万円未満までは80円、それ以上は290円の振り込み手数料が必要です)

なお、会員の皆さんには本年4月に鹿児島市において開催された総会の報告と、その際に改正された新しい会則、及び会費納入の為の郵便振替口座払込取扱票を同封させていただきました。

Nepal Blind Support Association (NBSA)

P.O.Box: 8974 PCN-111 Kathmandu, Nepal Tel:977-1-4425-709

E-mail: [NBSA@mail.com.np](mailto:NBSA@mail.com.np) / [yorikonepal@hotmail.com](mailto:yorikonepal@hotmail.com)

日本の事務局：

〒284-0005 千葉県四街道市四街道 1-9-3 視覚障がい者総合支援センターちば内 NBSA

電話:043-424-2501 Fax: 043-424-2486 事務局担当者 高梨 憲司

NBSA HP：<http://NBSA.sakura.ne.jp/>

維持会費：個人会員年間 6,000 円 / 法人会員年間 15,000 円

振込先：口座記号番号 0019-7-762775 (ネパールの視覚障害者を支える会)